

第 15 回 埼玉輸血フォーラム

開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会 代表世話人 石田 明

皆さんこんにちは。埼玉県合同輸血療法委員会の代表世話人を務めております埼玉医科大学国際医療センターの石田です。

昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に変更になったとは言うものの、この冬はインフルエンザも重なってどの医療機関も落ち着かない状況と観察します。

にも関わらず、お忙しい時間の合間を縫って第 15 回埼玉輸血フォーラムにご参加いただき、本当にありがとうございました。

当委員会も活動制限を余儀なくされる状況が続いていますが、委員一同でいろいろと工夫を凝らし、活動を粛々と進めてまいりましたので、後ほどの委員会報告をぜひお聴きになってください。

さて、本日のプログラム概要をご説明いたします。

今回も昨年同様、医療スタッフ向け講習会、委員会活動報告、パネルディスカッション、そして教育講演の四部作で進めて参ります。

講習会は先程終わりましたが、今回は献血の現状と供給体制について埼玉県赤十字血液センター学術情報・供給課の新妻太一朗様に、また血液製剤の製造について関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の仲川寛斎様にお話しいただきました。

この後は委員会活動報告です。前半は塚原委員

に当委員会の長期的課題である廃棄血削減に関する活動報告を、後半は樋口委員に輸血療法委員会の実態調査報告をしていただきます。もし時間に余裕があれば、各医療機関の実情についても聴いてみたいと思います。

続いてフォーラム一番人気の恒例パネルディスカッションです。今回のテーマは輸血インシデントです。どんなストーリーが展開されるのでしょうか。題して「こんな輸血インシデントありますか？ 当たり前は当たり前じゃない」。

そして最後は教育講演です。日本血液事業本部長でおられる紀野修一先生にお越しいただき、「PBM の基本」についてお話しいただきます。PBM って何だろう、PBM って難しい話かな、自分には関係ない話かな、と思われる方がおられるかも知れませんが、そうではありません。PBM とは周術期輸血を減らすための工夫や考え方という意味なので、輸血管理部門の方だけでなく、医師や看護師さんにもぜひ聴いていただきたいお話です。紀野先生はかつて外科医でおられましたので、現場視点のお話が聴けるのではないかと大変楽しみにしております。

本日はとにかく寒いですね。暖かくして寛ぎながら、午後のひと時をぜひ埼玉輸血フォーラムでお楽しみください。